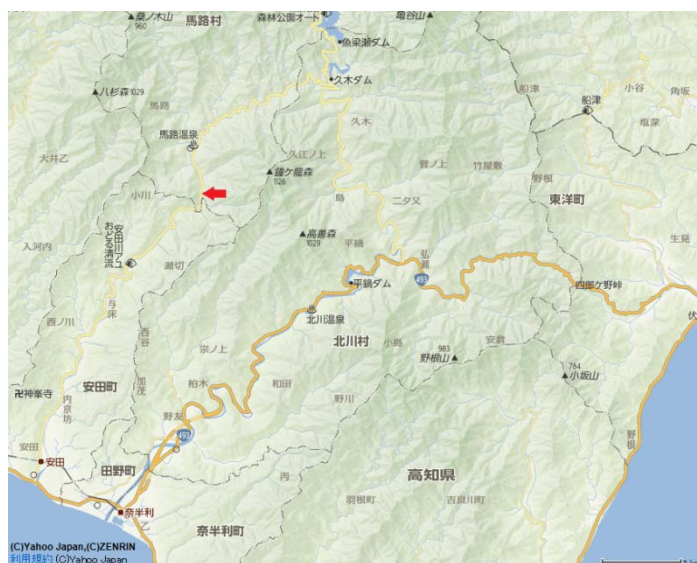


高知県馬路村の山間溪流へのオオクチバスの進出

田中宏明

筆者は2012年6月29日、高知県馬路村の安田川溪流にて河岸調査中、偶然、水中をアユに混じって2尾のオオクチバスが遊泳しているのを目撃し写真撮影した。

馬路村は高知県の中東部の山間部に位置し、急峻な地形と四国山地の脊梁部を後背に有することから太平洋側からの湿った空気を集め易く、魚梁瀬地域と呼ばれるこの一帯は日本有数の多雨地点として知られ、2011年の台風10号では7月19日の一晚の降雨量が851.5mmとなる等の記録的豪雨となっているが、常時多雨であることもあって、安田川流域でも、大きな被害や河川の変化は記録されていない。安田川は二級河川ながら年間通じて豊富な水量を誇り、また上流にはダムの存在しない自然河川である。間接的には、上流部で奈半利川の魚梁瀬ダム貯水池への送水経路が存在するが、発電用送水路であるため、魚梁瀬ダム貯水池にオオクチバスが生息していたとしても送水路を利用したの遡上は不可能であると考えて良い。



確認水域 位置図

現地は両岸とも侵食された岩盤が露岩し、河床部には巨大な転石が配される溪流形態の淵の部分に相当する。水温計は携帯していなかったため測定していないが、手を浸した感触では、河川上流部の溪流として然るべき水温であり、特段温水が流入している様子もなかった。ちなみに、すぐ上流に馬路温泉が営業しているが、実際には大深度掘削によって得られた冷泉に過ぎず、天然の温湧水の流入因子は存在しない。



確認水域の状況

2尾のオオクチバスは縄張りを作れない小型のアユの群れの上の水面近くをゆっくり遊泳しており、特に捕食行動は観察されなかったが、人の影を見ると素早く深みに移動した。現地には数多くカジカガエルが生息しており、岸近くの表層を回遊していたのは、アユではなく、捕食が容易なカジカガエルを待ち伏せていた可能性も考えられる。偶然、その時携帯していたカメラが水中撮影可能なものだったため、水中にカメラを沈めて、深みに隠れた姿の撮影も試みたが、透明度不足で断念した。



深みに逃げ込もうとするオオクチバス

安田川は天然アユの名産地として名高く、県下のアユ食味大会でも例年一位を獲得している清流であり、それなりにアユ釣り客も多いが、アユ釣り以外の遊魚客はまず見かけない。仕事や遊びで何度も沿線を走ったことはあるが、少なくとも、バサーを見かけた記憶は一度もない。

また、このような多雨地帯で水利面で事欠ず、また、急峻な地形から水田耕作も不可能で、基本的には魚梁瀬杉を中心とした林業とユズ・シイタケを中心とした典型的な斜面農業であるため、流域には溜池は一切存在しないことから、そういった水域からの侵入の可能性は否定される。安田川は高知県の河川にありがちな「下流部の存在しない川」であり、急流のまま流れ下り、汽水域なしにいきなり太平洋に流入する。したがって、一般的な下流部での放流個体が・・・という経路も考えにくい。こういう侵入経路が非常に想定しにくい水域で、かつ、水温的にもオオクチバスの生息には不向きな環境（ただし、溪流とはいえ、高知なので冬でもそこまで水温は低下しないのかもしれないし、水流の穏やかな淵は点在する）にまで進出が確認されることは真に由々しき事態と言わざるを得ない。少なくとも、こんな溪流にでも密放流する者が居る事だけは確からしい。このオオクチバスが現地で繁殖しないことを祈りたい。